2014
Vol.11

九大別府病院だより

Kyushu University Beppu Hospital

❷ 温泉気候物理医学会にて研究奨励賞を受賞
温泉の医療応用の現状
❸ 放射線学会にて先進手法でブロンズ賞を受賞
10/1から放射線科の病床が開設されます
❹ 対談「おんけん時代の思い出」シリーズ第1回目
～元看護部長関口さんと堀内教授～
❽ 第２回市民公開講座
❾ 第７回おんけん症例検討会

病院の理念・基本方針

理　念

患者さんに満足され、医療人も満足する医療の提供ができる病院を目指します。

基本方針

◆地域医療との連携及び地域医療への貢献の推進
◆プライマリ・ケア診療の充実
◆全人的医療が可能な医療人の養成
◆専門医療の高度化を目指した医学研究の推進
◆国際化の推進
◆生活の質が向上できる医療の提供

患者さんの権利と責務

私どもは患者さんの権利を守り、病院の理念に基づいた、公平で良質な医療を提供することを目指します。

九州大学病院別府病院
Kyushu University Beppu Hospital

温泉気候物理医学会にて研究奨励賞を受賞

第七回研究奨励賞助成金贈呈書

前田 豊樹 殿

九州大学病院別府病院内科

一般社団法人日本温泉気候物理医学会の2014年度研究奨励賞選考において、慎重かつ厳正な審査の結果、「線維筋痛症に対する人工炭酸浴の治療効果の客観的指標による評価」は、助成の対象にふさわしいものとして決定しましたので、ここに助成金を贈呈いたします。

2014年5月12日

一般社団法人
日本温泉気候物理医学会

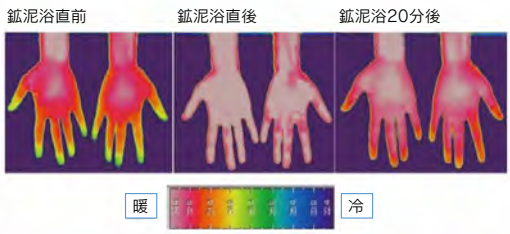
理事長 大塚 吉則

平成26年５月に京都で開催されました日本温泉気候物理医学会にて、第7回研究奨励賞を受賞致しました。研究テーマは「線維筋痛症に対する人工炭酸浴の治療効果の客観的指標による評価」というものです。現在、九州大学病院別府病院では、線維筋痛症に対して、高い温熱効果を有する鉱泥浴治療を行い良好な成績を収めつつありますが、同様の効果を自宅でより手軽に得られないかという発想のもと、高い血管拡張効果がある炭酸浴に着目し、人工入浴剤による炭酸浴治療で線維筋痛症に対する治療効果を確かめようというものです。これが確かめられれば、通院もしくは入院による鉱泥浴治療に加えて、自宅での炭酸入浴治療を併用して、治療成績をさらにあげられると期待しています。

温泉の医療応用の現状

鉱泥浴

別府市は、源泉数世界一で、しかも様々な泉質の温泉が一地域に密集しているという、世界でも類を見ない温泉地であります。九州大学病院別府病院は、そこに昭和６年に設立された九州帝国大学温泉治療学研究所を源流として、温泉治療の歴史を紡いでまいりました。昨今は、ヒトのゲノムDNAがすべて解読され、その情報を元に、すさまじい速度で新薬開発が進む一方、ロボット医工学やiPS細胞による再生医学など、最先端医学に目が奪われがちです。そのなかで、温泉治療と言えば、昔ながらの湯治のイメージからか、先進的治療とは対極的である感があります。しかし、温熱医学という立場からは、その先進性は決して低くありません。温泉は、真水の温湯と異なり温熱効果が高く、それが持続します。これは、一つには水以外の物質の混在による比熱低下によると考えられます。この持続的な体温上昇は、体内血液循環量増大を招き、様々な生理的効果を生みます。体温上昇には、肺炎の時の発熱など、病的なイメージがありますが、免疫能力を高めるために生体が進化の過程で得た防御能力なのです。体温上昇による生体効果は、未知の部分が多く、今後開拓される余地を多く残しています。当院では、この温熱効果が、慢性疼痛に有効であることに着目し、とくに効果の高い鉱泥浴によって、難治性慢性疼痛を来す「線維筋痛症」に対して良好な成績をおさめています。この鎮痛効果は、体内に存在する一種のストレス物質を増大した血流により洗い流すことによる効果であるといわれます。この血流増大は、傷の治りを早めたり、安眠効果もあり、様々な医療分野への応用が期待できます。将来的にiPS細胞から作った臓器の移植の時も、周囲の血流を増大させれば生着が良く、治療成功率上昇が期待できます。この別府が、温泉の医療応用においても世界的なモデル都市となる日が遠くないことを願って、これからも温熱治療としての温泉の医療応用を推進してまいります。



鉱泥浴の保温効果の持続

（文責：内科准教授　前田豊樹）

放射線学会にて先進手法でブロンズ賞を受賞

表　彰　状

第７３回日本医学放射線学会総会
Bronze Medal

平川 雅和　殿

あなたはこのたび開催された第７３回日本医学放射線学会総会において優れた研究を発表されましたのでその成果をたたえ本賞を贈ります

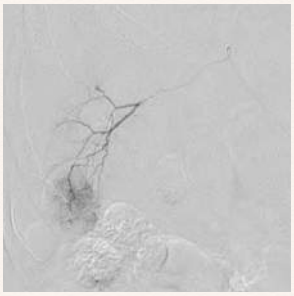
演題名：「ミリプラチン使用マイクロバルーン閉塞下 TACE とエピルビシン TACE の HCC 局所制御能の比較検討」

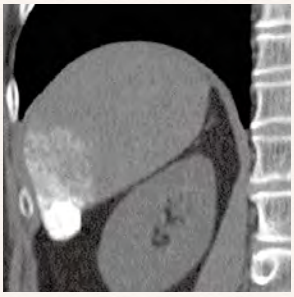
平成２６年４月１３日
第７３回日本医学放射線学会総会
会　長　金　澤　　右

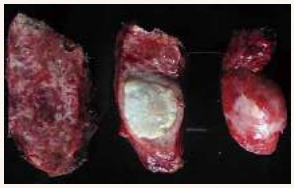
第73回日本医学放射線学会総会（４月10日―13日、パシフィコ横浜）で優秀発表賞を受賞させていただきました。

受賞させていただきました発表は、肝臓がんに対する、新しいカテーテルを用いた動脈内化学塞栓療法（TACE）です。この治療法は、九州で行っている施設は、まだ多くはありません。治療内容は、従来のTACEでは、大腿動脈から挿入したカテーテルを肝動脈の奥深くまで通して肝臓がんの近くまで誘導し、抗がん剤を注入していきますが、ここからが新しい手法で、抗がん剤を注入する時にカテーテル先端に付属したマイクロバルーンを膨らませて血管を一時的にふさぎ、薬剤を可能な限りがん病巣に集中させ、周囲の健康な肝細胞のダメージを極力抑えることが可能で、B-TACEと呼ばれています。

マイクロバルーンカテーテル


バルーン閉塞下血管造影
肝S6に肝細胞がんを認める。


治療後のCT
肝細胞がんに良好な薬剤沈着を認める。


B-TACE後の切除標本。
肝細胞がんは完全壊死状態であった。

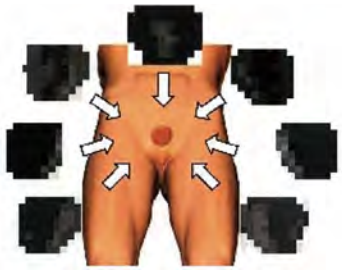
治療後もがん病巣のみに薬剤がしっかりと残ってがん細胞を攻撃することが可能で、当院で従来おこなっていたTACEよりも良好な局所制御の結果が得られています。

肝臓がんも、早期発見が大切で、定期的な検査と画像診断が必須です。様々な技術革新で、肝臓がんも手術やラジオ波の治療により患者さんの予後も改善傾向です。しかしながら、不幸にして再発した患者さんや進行した状態の患者さんでは、TACEの適応となります。私の施行しているマイクロバルーンを用いた血管内治療（B-TACE）により、少しでも再発率を低下させ、患者さんの予後改善にお役にたてれば幸いです。

（文責：放射線診療科長　平川雅和）

～ 10月1日から放射線科の病床が開設されます ～

10月より、放射線科で、病棟を担当することになりました。主に放射線治療の患者さんを担当させていただきます。ご高齢や体調不良により、外来通院での放射線治療が困難な患者さんで、入院での放射線治療のご希望がございましたら、外来受診時に、放射線治療担当医にお知らせください。


前立腺がんに対する強度変調放射線治療（IMRT）

この対談は平成26年7月2日、九大別府病院院長室で行いました。

対談「おんけん時代の思い出」

～元看護部長関口さんと堀内教授～

シリーズ　第１回目

略　歴

関　口　キミエ

（大正14年生、長崎県出身）

昭和17年10月　九州大学温泉治療学研究所　看護婦
昭和19年12月　南京第一陸軍病院
昭和21年12月　国立筑紫病院
昭和23年　4月　国立大村病院
昭和27年　8月　九州大学医学部附属病院
昭和29年　4月　九州大学温泉治療学研究所
昭和54年　4月　九州大学温泉治療学研究所　看護部長
昭和60年　3月　定年退職
昭和62年　4月　勲5等瑞宝章
昭和63年　5月　園遊会ご招待

今号より３回シリーズで掲載します、対談「おんけん時代の思い出」。第１回目は「学生時代の思い出」「看護師としての出発」「戦後の再出発」をお送りします。

堀内　関口さんは、ずいぶん昔から、九州大学温泉治療学研究所の発展に関わって下さっているというお話をお聞きしました。本当に関口さんは、九大温研の宝だと思いますので、今回対談をお願いした次第です。

関口　十数年前のことになりますが、妹がリウマチになり、地元長崎で治療に難儀をしていましたので、温研の内科で有名な延永正先生に診察していただきたいと思い、無理を承知で別府に呼び寄せました。延永先生からは人工関節を入れなければ痛みを和らげることは出来ないと言われ、大分医科大学の鳥巣岳彦先生に手術をしていただき、手術後は痛みも少なく、約 10 年ほど穏やかな日々を過ごした後、最後はやすらかに永眠いたしました。延永・鳥巣先生を含め温研の教職員の皆さんには本当に感謝しています。

今は、私も年を取りました。内科の前田豊樹先生に、リハビリテーションを含めて通院をさせてい

本館玄関前（旧）（昭和 16 年）

ただいています。現在 89 才になりますが、九大別府病院の先生方には、今後ともお世話になります。よろしくお願いいたします。
さて、病院の第一線を退き約 30 年以上になります。温研には、約 30 年間、大変お世話になりました。また楽しい時代を過ごさせていただきました。

本館玄関前（旧）（昭和 41 年頃）

学生時代の思い出

堀内　ご出身のことや学生時代の思い出話、我々が知らないエピソードなど聞かせていただけたらと思います。

関口　私は、長崎県島原の出身で、7 人兄妹で、3 番目の長女です。兄 2 人は戦死し、弟 1 人は昭和 32 年の諫早の水害で亡くなりました。妹が 3 人いますが、1 人が 8 年前に亡くなりました。
小学校の高等科を卒業の後、家事手伝いで実家にいた時に、九州帝国大学の看護員養成科に行っていた地元の先輩から勧められて、昭和 15 年 10 月九州帝国大学医学部附属医院看護員養成科に入学、温泉治療学研究所の配属となり、2 年間の実習がありました。その当時の学生は、現在と異なり、卒業後、義務の病院勤務年限がありましたので、昭和 19 年 10 月まで、温泉治療学研究所に勤務いたしました。

堀内　学生時代にご指導いただいた先生など印象に残る思い出はありますか。

関口　内科には高安慎一先生、松尾武幸先生がいらっしゃいました。高安先生は、英国紳士風の先生で、いつも静かに歩いて、靴も音のしない布の靴を履いていらっしゃいました。松尾先生は、活発な先生で、当時はまだとても珍しかった、ゴルフをなさっていて、とてもモダンな先生だったという記憶があります。
特に印象に残っているのが、昭和 16 年温研創立 10 周年の記念式典が、別府市公会堂（現在の別府市中央公民館）で開催された時のことです。
その当時、今のようにトラックなどの車はありませんでしたので、公会堂まで荷物を運ぶのに車力（しゃりき）で運びました。人力車は鉄ですが、車力は木製で、温研や自宅でも木材を集めてそれぞれで作ったものです。今の方はリヤカーを想像されると思いますが、そんなものはありませんでした。
温研から公会堂までは、舗装されていない泥の道を、職員・学生が力を合わせて何度も何度も汗だくで荷物を運んだことが思いだされます。

看護師としての出発

堀内　今は、別府市中央公民館となっている場所まで、車で数分の坂道ですが、人力で荷物を運ぶ苦労は今の私たちではなかなか考えられませんね。看護学校を卒業後、中国大陸へ渡られていますが、なにか理由などありましたか。

関口　温研での義務の勤務も終わりに近づいた昭和19年は、すでに戦争中でしたので、親・兄弟がどうなるかわからない状況でもあり、地元の病院に勤めようと思っていたのですが、友人が南京第一陸軍病院に赴任するにあたり、体が弱いので一緒に働いてくれないかと、繰り返し頼まれました。温研の看護長（看護師長）からは、「行きなさんな、あんな所に行きなさんな。」と繰り返し反対されましたが、彼女の強い説得に折れて南京第一陸軍病院に就職しました。

南京第一陸軍病院は、旧日本陸軍が戦時中に建てた新しい病院で、今の方には理解できないと思いますが、将校などの陸軍の中で位の高い者の病棟と一般の病棟が完全に分離され、3階が将校用の病棟、1～2階は見習士官などの一般病棟でした。終戦になりまして、私たちは捕虜マークをつけられて収容所に収容されました。南京第一陸軍病院は、終戦になってすぐ中国の人々に没収されました。日本人も入院していましたが、3階病棟などの環境の良い場所は、日本人は移されて、中国の方が入院することになりました。

病院にいた中国の方は、お茶わんとはしをふろしきに入れて背中に背負って病院に来ていましたので、まだ中国は戦争の最中なのだと思いました。中国語はわかりませんでしたが、通訳のために旧日本軍の特高（特別高等警察）が対応していました。彼らは日本に帰国したら、大陸で行った行為で、直ちに死刑になると決まっていました。だから、ここで働いているのだと説明してくれました。私も、当時はいつ帰国できるかわからないため、少し中国語を習っていたのですが、中国語は難しくて覚えられませんでした。昼間は3階病棟で働いていましたが、夜間は2階病棟の中国人のお世話をしていました。

リハビリ棟（昭和41年頃）

中国の方は熱いものしか食べませんでした。お茶を持って回ると、「シンジョ、シンジョ（ください）」とお茶をくれと言って来るのですが、沸騰していましたので、注ぐのにぐずぐずしていると、待てずに泣き出す方もいました。

中国人患者への対応が悪いと、後で中国の看護長に呼び出されます。看護長からは、中国人を侮辱したということで、裁判になったら、日本に帰国できないわよと言われたことがあり、震え上がりました。

ある時、お茶のことで、看護長が、私の顔をみて、「あなただったの」と言われて、私が「昨日は失礼なことをしました。いっしょうけんめいしようと思っても、同じ人に2度注ぐと全部に回らないので、平等にと思って隣から行って、余ったらまたあげようと思っていました」と伝えると、「わかりました」といって、ご破算になったこともありました。

中国の方から、問題のない日本人は直ちに帰国させることになっているが、戦後の混乱時期で、鉄道車両や人を運ぶ車もない状態なので、移送出来ずに足止めされているという噂を聞いたことがありました。しばらくすると、病院のこともある程度落ち着きまして、帰国が決まりました。そうなると、無事に帰国できるかという不安と日本の様子がとても気になりました。

九州大学温泉治療学研究所並びに附属病院前景（昭和 53 年）

昭和 21 年 3 月に上海に移動、帰国の船を待つ間しばらく看護婦として病院で働きました。収容施設での出来事で忘れられないことがあります。中国の人が施設に大きな刀をもって押し入り、「私の妹は日本人に鼻を切られました。仕返しに私はあなたの鼻を切ります」とわめいて、刀を持って追いかけまわされた同僚の看護婦がいて、毎日毎日、私たちは身も心もふるえる思いをしました。

引き揚げが決まって、船で帰る際には、普通の引き揚げ者と違い、私は看護婦であったため、船の中でも病人を看病していました。亡くなられる方もいて、船の中でお葬式もありました。昭和 21 年 5 月博多に上陸、お寺に 2 日間泊まった後、伝染病等の検疫検査を終えて、長崎の地元に戻りました。

戦後の混乱期、弟は家にいましたが、両親からは、2 人の兄の遺骨が戻ってお葬式がすむまでは、実家にしばらくいてほしいと頼まれましたので、家で農業を手伝いながら待っていました。

戦後の再出発

昭和 21 年 12 月に国立筑紫病院に就職しましたが、両親のこともあり、昭和 23 年 4 月から国立大村病院に再就職しました。大村病院では、長崎の原爆のこともあり、看護婦が不足していましたので、私のような未熟者でも、看護長になっていました。

ある日、月曜日に病院に出勤しましたら、いつも明るい患者さんが目を腫らして泣いていました。「どうしたの？」と尋ねましたら、昨日、お義父さんと旦那さんがお見舞いに来て、結核を患ったことが原因で離婚になったことを告げられたと打ち明けられました。

そんな時に、九大病院の須河内総婦長が大村病院に来られましたので、悩んでいることを話しましたら、福岡に行ったら、夜間に勉強できるところがあって、看護や社会福祉の勉強もできて将来役に立つからと、九大本院に移ることを勧められ、長崎を後にすることを決意いたしました。

（次号に続く）

第２回 市民公開講座を開催しました。

６月14日（土）別府市亀の井ホテルにおいて、九州大学病院別府病院第２回市民公開講座を開催しました。

市民公開講座は、平成17年度から年間３回程度、市内にある会場で当院の医療従事スタッフが講演を行ってきましたが、平成25年度からは趣向を変えて、従来の当院医療従事スタッフの講演に加え、学外の有識者を招いての特別講演を企画してきました。

毎日新聞デジタル報道センター
副センター長　元村有希子氏

今回、その第２回目として、九州大学教育学部出身の毎日新聞デジタル報道センター副センター長の元村有希子氏をお招きして、「科学にだまされないために」と題した講演を開催しました。

特別講演に先立ち、三森病院長より挨拶があり、引き続き当院の各診療科（４診療科）から最新情報の紹介を行い、前田内科副科長からは「難病への挑戦－内科の取り組み」として鉱泥浴を含めた線維筋痛症の治療、杉町外科副科長より「診療科の垣根を越えた膵がんへのとりくみ－米国研修の経験から－」として外科・内科・放射線科と連携した「できるだけ早く、ベストな治療法」の診療に向けて、土井整形外科長より「寝たきりを防ぐせぼねの役割」としてセメントを用いた治療法や骨粗鬆症の治療について、平川放射線科長より「肝臓がんに対する新たな血管内治療の取り組み」として血管内でのバルーンを用いた新たな抗がん剤投与の治療についてそれぞれ紹介がありました。

後半は、新聞記者として活躍され、優れた報道や出版物などを表彰する「科学ジャーナリスト賞」で「大賞」を受賞され、テレビでもコメンテーターやキャスターとしても活躍されている元村有希子氏の特別講演が行われました。ダイエット商品の過大表示に対する行政処分、納豆のねつ造放送、モーツァルトを聞いたお酒がおいしくなる、ネックレスの波動で病気が治る等科学的には解明できないものの問題点をひとつずつ笑いも交えながら説明され、特別講演のテーマである「科学にだまされないために」どうすればいいのかわかりやすく学んだ講演会でした。

（文責：別府病院　事務長　江上正次）

第７回「おんけん症例検討会」を行いました。

この会は平成25年1月17日に外科を中心に「おんけん消化器・乳腺症例検討会」として始めた会です。第4回より内科・外科の合同で開催することになり、名称を「おんけん症例検討会」とし、「がん」「消化器疾患」だけでなく「リウマチ・膠原病」「糖尿病」「循環器疾患」等も御開業されている先生方と一緒に勉強させていただく会にしていくことになりました。

今回、平成26年7月31日に「第7回おんけん症例検討会」を行いました。

第4回以降は、毎回、症例検討会と特別レクチャーを内科と外科で交互に担当しております。今回は、症例検討会が内科、特別レクチャーが外科の担当で行いました。

前半の症例検討会は、内科、堀内教授の司会で、

①伊藤能清医師から「関節リウマチ・原発性マクログロブリン血症に急性骨髄性白血病を合併した高齢者の一例」を、②田村真吾医師から「悪性胸膜中皮腫に全身化学療法を導入した症例」を、③小柳雅弘医師から「息切れと浮腫を主訴とした興味深い一例」を供覧させていただきました。

後半の特別レクチャーでは、外科、杉町医師の座長で、外科の井口友宏医師から「大腸がん肝転移に対する肝切除」のミニレクチャーを行いました。

この会は、年に4回行われており、第4回目からは「日本医師会生涯教育制度適合学術集会（１単位）」としても認められていて、今回も別府医師会以外の医師会からも多数参加をいただきました。

オープンな会であり、有意義な勉強会となるよう努力して参りますので、多くの先生方に参加していただきますようお願いいたします。なお、今後の開催日程につきましては、大分県医師会のホームページでもご覧いただけますので、お気軽にご参加いただけますようお願い申し上げます。

（文責：地域医療連携室　小出繁美）

九州大学病院別府病院　外来診療案内

（平成26年10月1日現在）

科名	診療区分	月	火	水	木	金
内科	リウマチ膠原病 骨粗しょう症	堀内孝彦 木本泰孝 有田好之	堀内孝彦 有田好之 塩沢俊一	木本泰孝 合田英明 前川真貴子 塩沢俊一	病棟回診日	堀内孝彦 木本泰孝 有田好之
	糖尿病	有田好之	有田好之	前川真貴子		有田好之
	血液病	――	伊藤能清	伊藤能清		伊藤能清
	腫瘍性疾患	田村真吾	田村真吾	――		――
	消化器・膵疾患	有田好之	有田好之	――		有田好之
	循環器・呼吸器	樋口義洋 小柳雅孔	樋口義洋 （新患のみ）	樋口義洋	樋口義洋(第2,4) 小柳雅孔	小柳雅孔
	老年病	前田豊樹	前田豊樹	前田豊樹	前田豊樹	――
	睡眠時無呼吸外来	小柳雅孔	樋口義洋	樋口義洋	樋口義洋(第2,4) 小柳雅孔	小柳雅孔
	禁煙外来（全予約制）	担当医	担当医	担当医	担当医	担当医
外科	一般 消化器 肛門	三森功士 杉町圭史 江口英利	手術日	三森功士 杉町圭史 井口友宏	手術日	三森功士 杉町圭史 江口英利 井口友宏
	肝・胆・膵	杉町圭史 江口英利		杉町圭史 井口友宏		杉町圭史 江口英利
	乳腺	三森功士 新田吉陽		三森功士 新田吉陽		三森功士 新田吉陽
	セカンドオピニオン	――		要予約(第1,3) 午後3:00～		――
麻酔科	疼痛外来（全予約制）	手術日	手術日	手術日	大庭由宇吾	手術日
整形外科	脊椎外科 （全予約制）	手術日	土井俊郎 東野修 樽角清志 末次弘征	手術日	土井俊郎 東野修 樽角清志	手術日
放射線科	放射線治療	渥美和重	渥美和重	――	渥美和重	――
	放射線画像診断	平川雅和	坂本勝美	平川雅和	平川雅和	平川雅和
共通 （内科・外科・放射線科）	上部消化器内視鏡	江口／齋藤	坂本勝美	坂本勝美	坂本勝美	有田／田村
	下部消化器内視鏡	坂本／齋藤	坂本勝美	坂本勝美	坂本勝美	坂本／田村
	EMR/ESD	坂本勝美	坂本勝美	坂本勝美	坂本勝美	坂本勝美
	ERCP	有田好之	――	――	有田好之	――

※担当医は変更となる場合がありますのでご了承ください。

初診・再診の受付時間 8:30～12:00
※但し土日、祝祭日は休診（急患は除く）

整形（火・木）一完全予約制：初診は地域医療連携室へ要Tel
放射線治療（月・火・木）一初診 8:30～11:00
麻酔（木）一予約：初診は地域医療連携室へTel

地域医療連携室より 問合せ先ご案内

◆CT・MR・内視鏡検査のご依頼

放射線科受付 0977-27-1722（直通）

・検査依頼は、電話にて受け付けております。依頼検査優先時間帯を設けています。
・結果は、CDデータ、報告書とともに、ご依頼いただきました先生方へ迅速にお返事いたします。

◆放射線治療のご依頼

地域医療連携室 0120-272-518（専用）
0977-27-2055

・乳癌、食道癌、肺癌、前立腺癌、悪性リンパ腫、癌性疼痛に対する緩和治療、その他の悪性腫瘍についてはご相談ください。
・放射線治療の診療は、事前に連絡をいただければ、待ち時間が少なくなるよう配慮させていただきます。

その他、外来・入院に関するお問い合わせ

月～金　8:30～17:00　0120-272-518（専用）
TEL：0977-27-2055（直通）　FAX：0977-27-3008（24時間受信可）

九大別府病院だより Vol.11

九州大学病院別府病院
Kyushu University Beppu Hospital
〒874-0838　別府市大字鶴見字鶴見原 4546 番地
代表　TEL 0977-27-1600
URL　http://www.beppu.hosp.kyushu-u.ac.jp/